

ごあいさつ



日本赤十字社医学会
理事長 渡部 洋一
(日本赤十字社 業務執行理事 医療事業推進本部長)

本年4月1日付で日本赤十字社医療事業推進本部長、日本赤十字社医学会理事長に就任いたしました。よろしくお願いたします。

日本赤十字社医学会総会は、旭川の地において3年ぶりに開催されることとなりました。今回の第58回総会のテーマは「北の大地から発信する共生・協調・協働の未来」であり、623題にのぼる様々な演題が発表される予定です。この会が施設や職種の垣根を越えた活発な情報交換や人脈形成を行っていただく場となれば幸いです。

令和2年2月から国内に蔓延した新型コロナウイルス感染症は、現在(令和4年8月時点)第7波の真ただ中にあり未だ収束の兆しがみえません。この間、日本赤十字社は「いかなる状況においても人間のいのちと健康、尊厳を守る」というmission statementに基づき、ダイヤモンド・プリンセス号への救護班派遣に始まり、通常診療に加えて新型コロナ陽性患者の外来・入院診療はもとよりワクチン接種、看護師の広域派遣等に至るまで全力で取り組んでまいりました。医療現場の張り詰めた緊張感の中で、昼夜を問わず懸命に奮闘していただきました医療スタッフの献身的な活動に深い感謝の念を捧げるとともに、赤十字の一員として誇りに思います。

旭川赤十字病院は、大正4年に日本赤十字社北海道支部仮病院として札幌市内に開設され、大正12年に旭川市に移転、昭和18年に旭川赤十字病院と改称いたしました。開設以来、診療科の増設や施設整備等の充実を図り、進化する近年の医療ニーズへの対応を積極的に進め、現在では520床の高度急性期病院として地域医療の中核としての役割を果たしております。特に救急医療を積極的に行っており、昭和53年に北海道内で初めて救命救急センターの承認を受け、平成21年には道北ドクターヘリの運航を開始し道北の3次救急医療を担っております。また、災害救護においても国内外の多くの被災地に積極的に職員を派遣し赤十字病院の使命を果たしてきました。これらの活動は、旭川赤十字病院が日本赤十字社の標榜する「災害救護の赤十字」の模範となってきたことの証であると敬意を表します。

最後に今回の総会の開催にあたりコロナ禍の中、長期に渡り準備を行っていただきました会長の旭川赤十字病院牧野憲一院長はじめ、病院職員並びに関係者の皆様のご尽力に深く感謝申し上げます。会員の皆様には、今後とも本医学会、そして赤十字グループのさらなる発展のため、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。